

# 冷暖房用器具への支出

## - 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

一段と冷え込む時期になりました。ご家庭でも日々、様々な暖房器具が活躍していることでしょう。そこで今月は、冷暖房用器具への支出について家計調査の結果からみてみましょう。

### 冷暖房用器具の支出は減少傾向

冷暖房用器具の1世帯当たり年間支出金額は緩やかな減少傾向にあり、平成21年は昭和60年の約4分の3となっています。内訳の構成比をみると、エアコンディショナが上昇する一方、ストーブ・温風ヒーターは低下しています(図1)。

### 冬場も購入されるエアコンディショナ

次に、冷暖房用器具の支出とその内訳を4～9月期、10～3月期に分けてみましょう。

4～9月期をみると、支出金額は緩やかな減少傾向にあります。また、内訳の構成比には大きな変化はなく、エアコンディショナが概ね8割前後を占めています。一方、10～3月期をみると、支出金額は同様に緩やかな減少傾向にありますが、昭和60年度には49%を占めていたストーブ・温風ヒーターが平成21年度には25%になり、替わってエアコンディショナが16%から42%に増えるなど、内訳の構成比には変化がみられます。エアコンディショナが暖房器具としても普及が進んでいる様子が見えがえ(図2)。

### 寒い地方ではストーブ・温風ヒーターが活躍

最後に、1世帯当たり年間支出金額を地域別にみると、支出金額は東海地方の14,478円を筆頭に近畿地方、四国地方が多く、他方で沖縄地方が3,336円と最も少なくなっています。内訳では、北海道地方、東北地方、北陸地方でエアコンディショナの支出が少なく、ストーブ・温風ヒーターの支出が多くなっており、寒い地方では暖房器具としてエアコンディショナよりもストーブ・温風ヒーターが中心となっている様子が見えがえ(図3)。

図1 冷暖房用器具の年間支出金額及び構成比の推移 (二人以上の世帯)

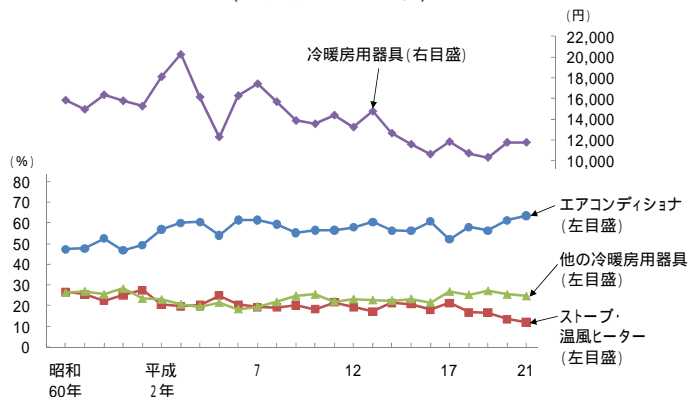


図2 冷暖房用器具の期別支出金額及び構成比の推移 (二人以上の世帯)

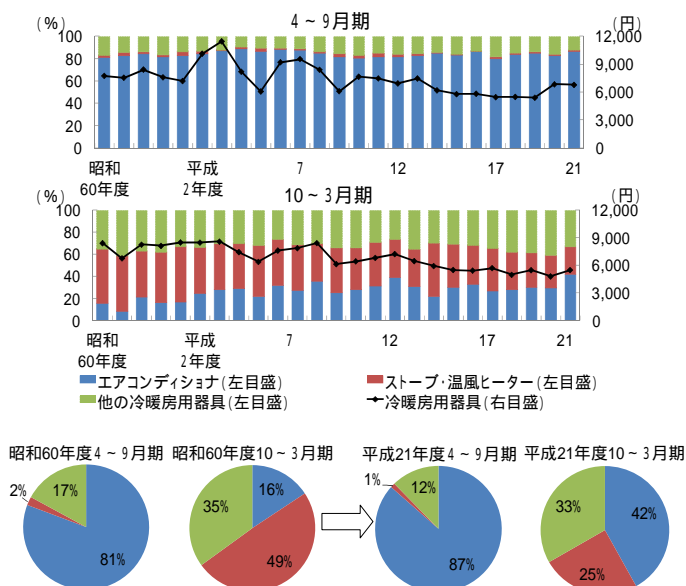


図3 冷暖房用器具の地方別年間支出金額 (平成19～21年平均 二人以上の世帯)

